

榎尾川ダム事業について

(1) 概 要

- 1 大津川水系榎尾川の概要
- 2 榎尾川における昭和57年の被害実績は？
- 3 榎尾川における平成7年の被害実績は？
- 4 榎尾川ダム of 事業概要
- 5 榎尾川ダムの事業費と進捗状況？
- 6 榎尾川ダムの事業スケジュールは？
- 7 榎尾川ダムによる治水効果は？
- 8 榎尾川ダムの用地買収が完了していない理由は？
- 9 なぜ、ダム建設工事に道路整備が必要となるのか？
- 10 榎尾川ダムの規模は、他ダムと比較してどうか？
- 11 ダム直下に洪水氾濫防御区域があるダムは？

まとめ

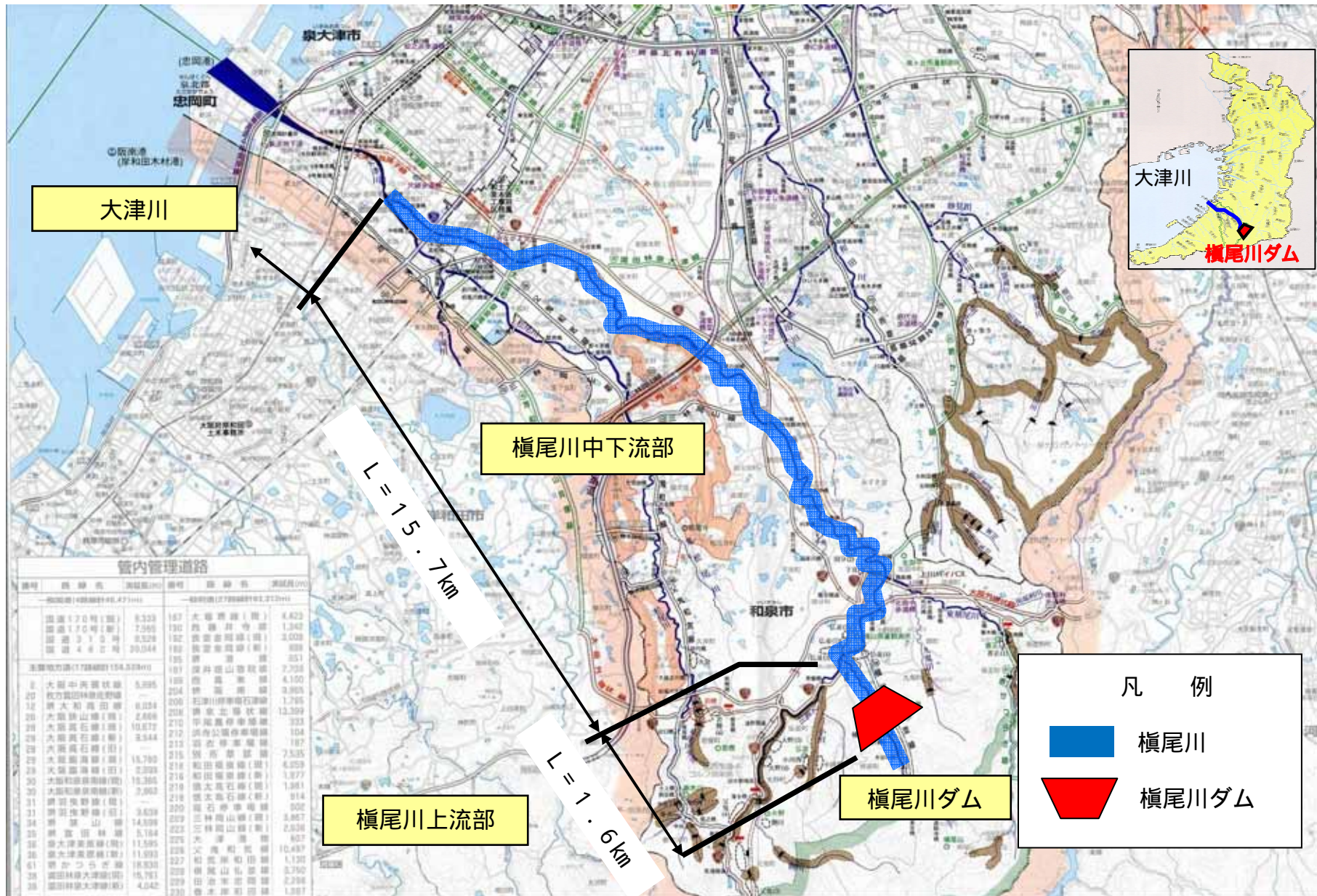
(2) 代替手段の可能性

- 12 榎尾川ダムを中止した場合の50ミリ対策の代替手法は？
- 13 榎尾川ダムと代替手法との費用比較は？
- 14 榎尾川ダムと代替手法との工期比較は？
- 15 上流部におけるダム建設と河川改修での工事により移転対象となる戸数は？
- 16 榎尾川を中止した場合のその他の影響は？
- 17 ダム建設と河川改修での維持管理費の比較
- 18 ダム建設と河川改修での完成後の維持管理費と総事業費の比較は？

まとめ

(1) 概要

- 1 . 大津川水系榎尾川の概要



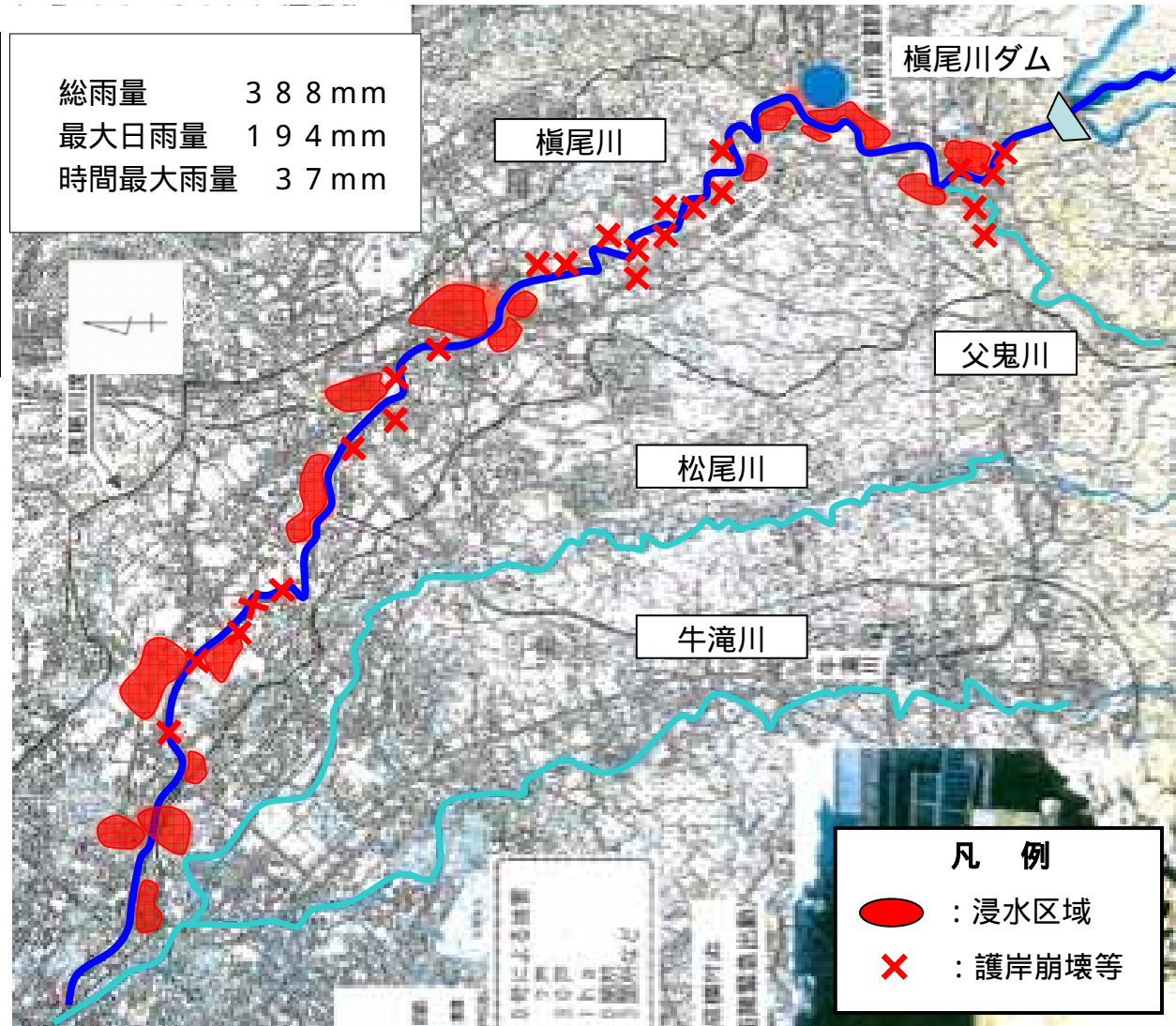
-2. 槇尾川における昭和57年の被害実績は？

昭和57年8月の

台風10号による被害

床上浸水	:	2戸
床下浸水	:	531戸
浸水面積	:	約11.2ha
護岸崩壊	:	43箇所
破堤	:	3箇所 など

総雨量	388mm
最大日雨量	194mm
時間最大雨量	37mm



(昭和57年和泉市調査資料を基に作成)

槇尾川上流部の被害状況 (S57災害)

- ・護岸崩壊 5箇所
- ・床下浸水30戸、農地浸水、道路冠水など



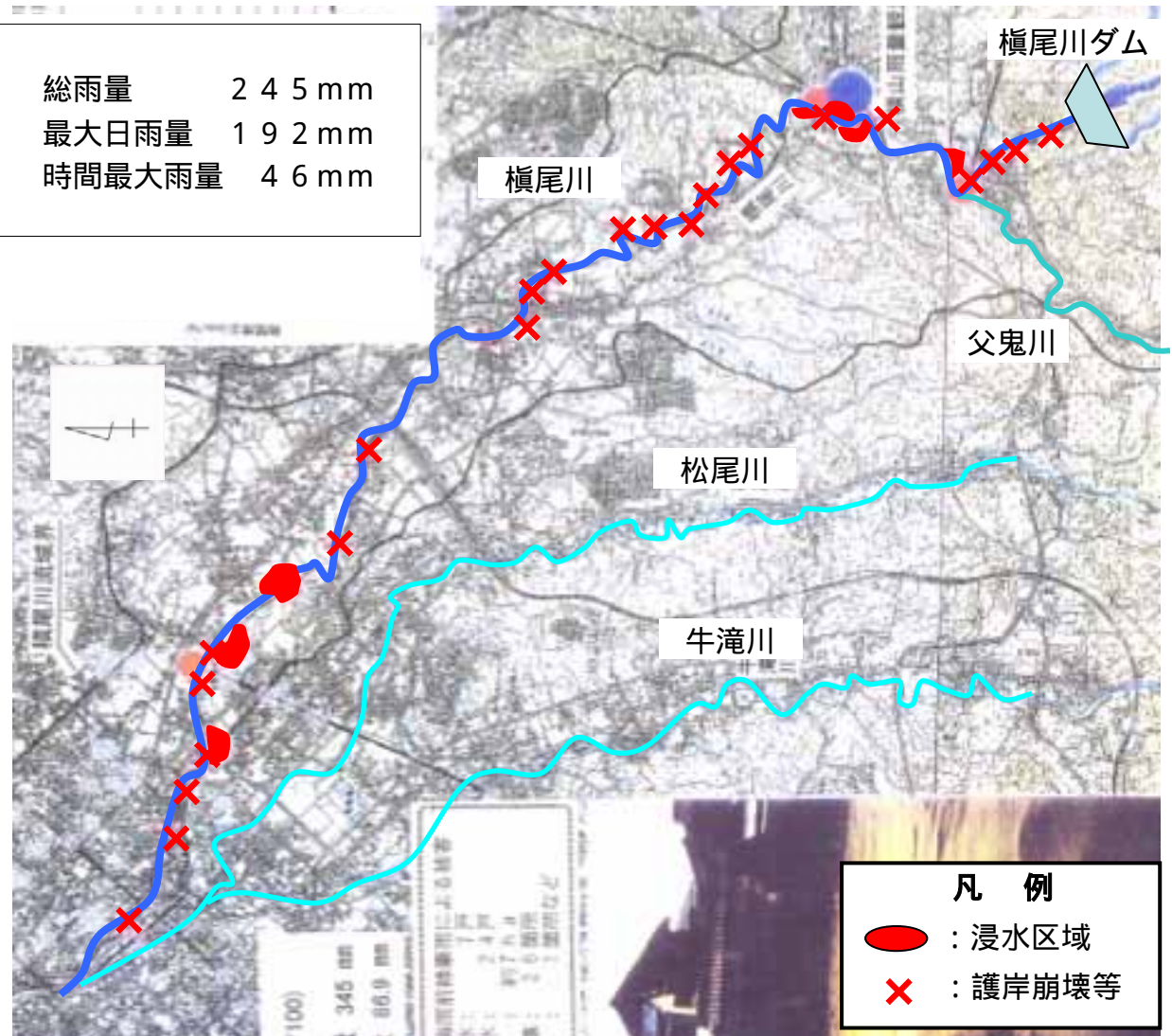
-3. 槇尾川における平成7年の被害実績は？

平成7年7月の

梅雨前線豪雨による被害

床上浸水 : 7戸
床下浸水 : 24戸
浸水面積 : 約7ha
護岸崩壊 : 26箇所 など

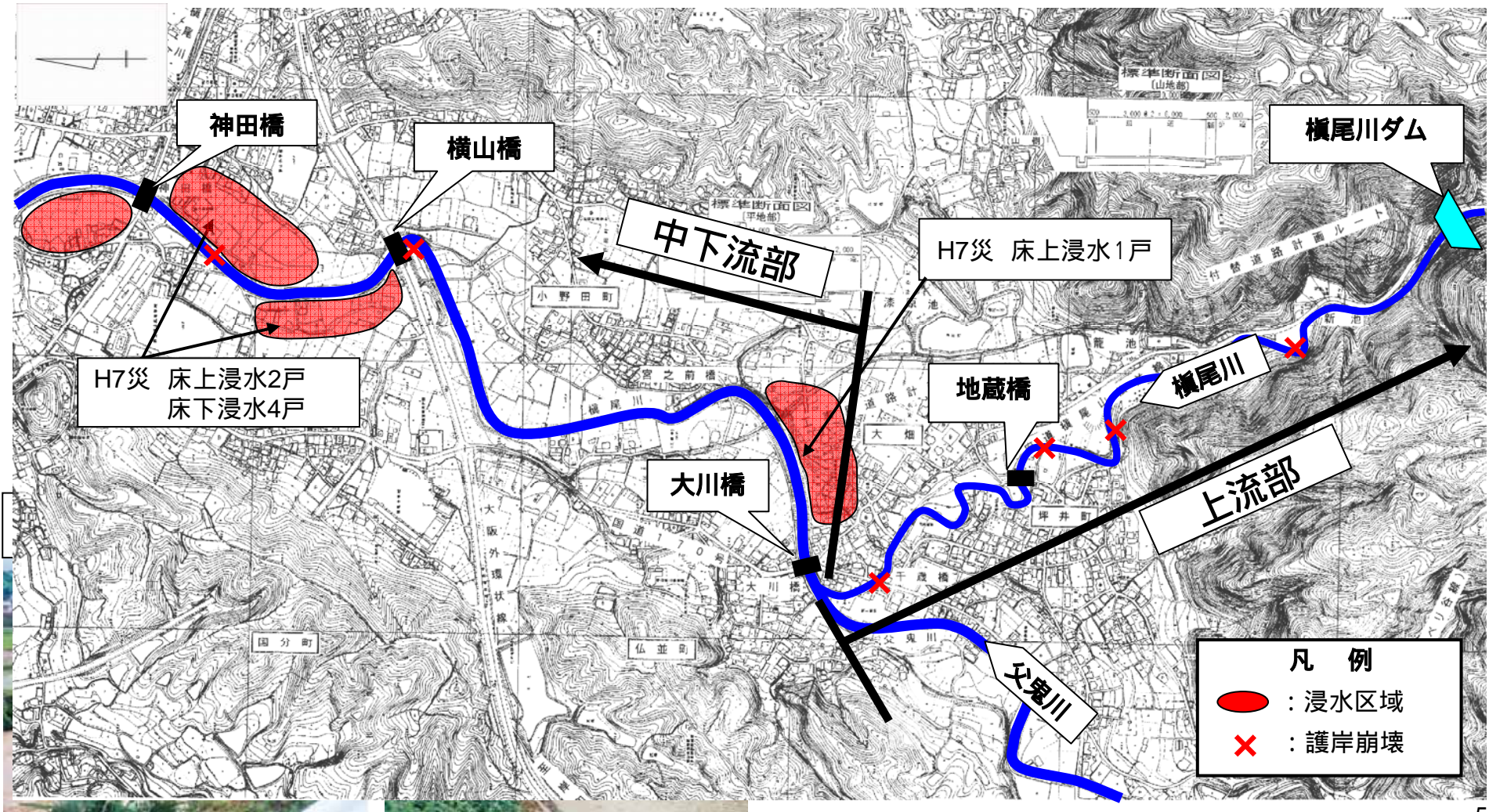
総雨量 245mm
最大日雨量 192mm
時間最大雨量 46mm



(平成7年和泉市調査資料を基に作成)

槇尾川上流部の被害状況（H7災害）

- ・ 護岸崩壊 4箇所
- ・ 床上浸水 1戸
- ・ 農地浸水、道路冠水など



-4. 檜尾川ダム of 事業概要



ダムの目的：洪水調節および
流水の正常な機能の維持

ダム形式：重力式コンクリートダム

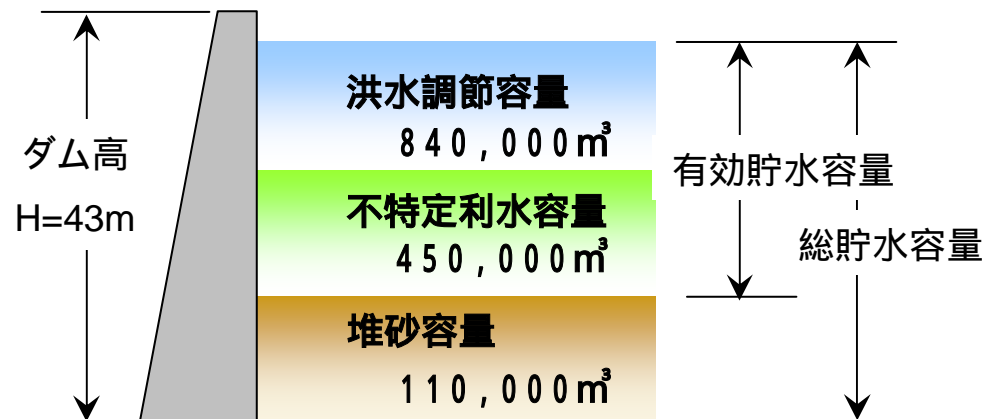
ダム高：H=43m

堤頂長：L=129.5m

堤体積：約58,000m³

総貯水容量：140万m³

有効貯水量：129万m³



付替道路：延長 $L = 3.3\text{km}$ （府道槇尾山仏並線）

幅員 $W = 9.0\text{m} \sim 11.0\text{m}$



-5. 榎尾川ダムの事業費と進捗状況？

総事業費は128億円である。その内訳は、ダム本体事業費79億円、付替道路事業費が49億円である。

榎尾川ダム事業は、国から補助を受けており、事業費に占める割合は1/2である。

進捗状況（H21年度末見込み）

- ・ 用地買収：全体17.1haのうち、16.3ha買収済み（95%）
- ・ 付替道路：全長3.3kmのうち、1.5km完成
- ・ 本体工事：H21年5月に約31億円で契約。H27年5月完成予定

事業費総括表

	全体事業費			投資済額 (H3～H21年度末見込)	残事業費 (H22以降)	進捗率
	工事費	用地費	計			
ダム本体	65億円	14億円	79億円	32億円	47億円	41%
付替道路	42億円	7億円	49億円	26億円	23億円	53%
計	107億円	21億円	128億円	58億円	70億円	45%

全体事業費に係る国・大阪府の負担内訳

全体事業費計		
	国	大阪府
128億円	64億円	64億円

-6. 榎尾川ダムの事業スケジュールは？

調査設計：平成3年度に国の補助を受けて着手。

用地買収：平成13年度に着手。平成22年度用地買収完了予定。

付替道路：平成13年度に着手。平成25年度全線供用予定。

本体工事：平成21年度本体工事着手。平成27年度完成予定。

			H3	~	H13	~	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
ダム建設	調査設計	測量 設計等	[Progress bar from H3 to H26]											
	用地買収	17.1ha			[Progress bar from H13 to H22]									
	付替道路	3.3km			[Progress bar from H13 to H25]									
	ダム本体	堤体積 58千m ³					[Progress bar from H21 to H27]							

-7. 榎尾川ダムによる治水効果は？

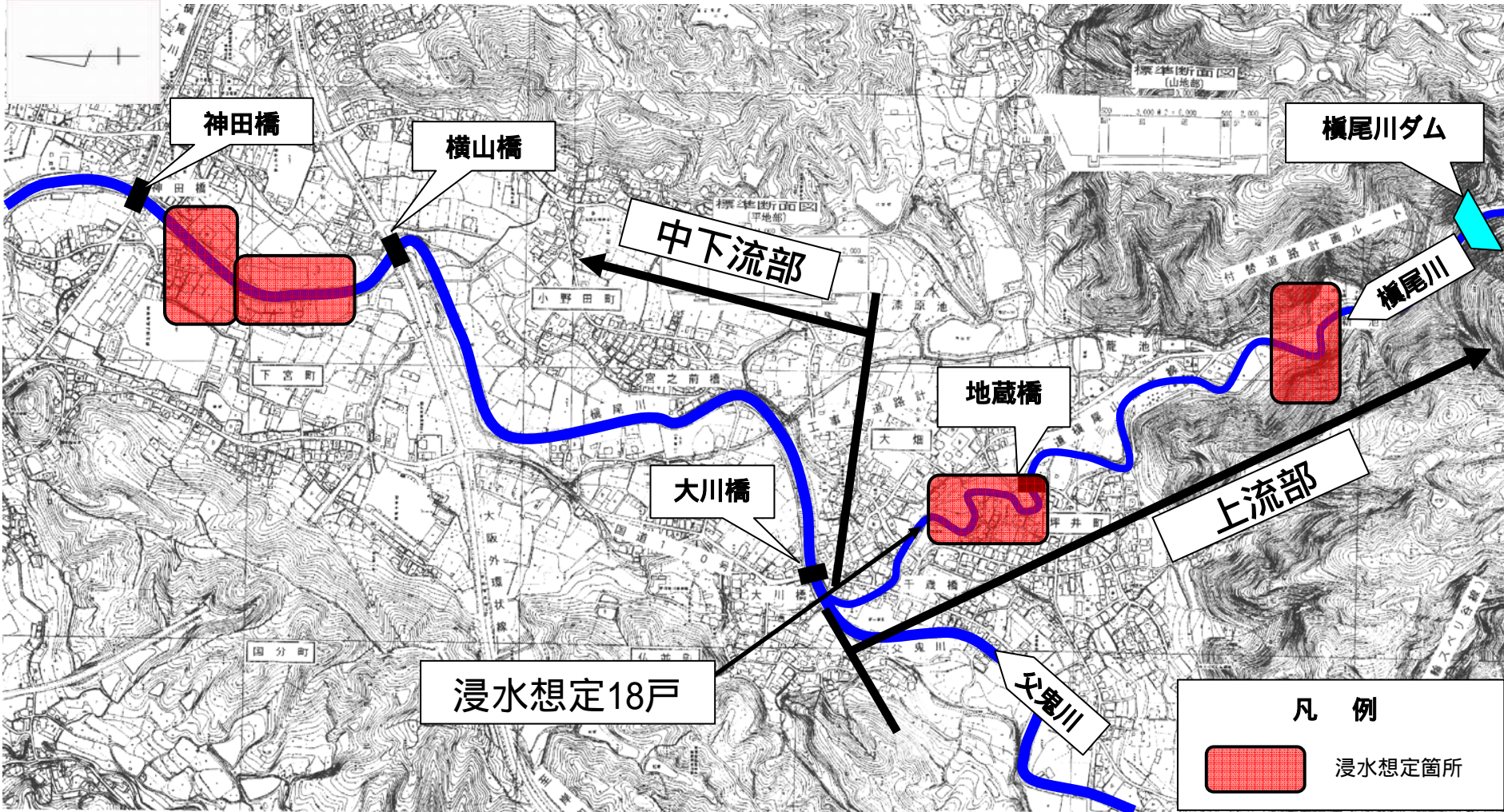
中下流部では、河川改修が大きく寄与し、ダムの効果は小さい。

上流部では、河川改修によらず、ダムのみで50ミリ降雨での想定被害が解消。

50ミリ降雨での想定被害

	想定される浸水被害		ダムにより解消される想定被害		河川改修により解消される想定被害	
中下流部	浸水面積	556.9ha	16.6ha		540.3ha	
	浸水戸数	14,505戸	414戸		14,091戸	
	被害額	935.3億円	52.2億円		883.1億円	
上流部	浸水面積	6.6ha	6.6ha		- ha	×
	浸水戸数	18戸	18戸		- 戸	
	被害額	1.5億円	1.5億円		- 億円	

ダムにより、上流部18戸の想定被害が解消。



-8. 榎尾川ダムの用地買収が完了していない理由は？

主な原因として、土地の境界問題、相続問題、買収単価で合意が得られない等がある。

ダム事業に反対している地権者は、1名いるものの、交渉は継続中。

【用地取得総括表】

	用地面積	買収済面積	未買収面積	進捗率
ダム本体	13.3 ha	12.5 ha	0.8 ha	94%
付替道路	3.8 ha	3.8 ha	-	100%
合計	17.1 ha	16.3 ha	0.8 ha	95%

- ・平成21年度末見込み。
- ・未買収用地の地権者数：27名（H21.10月末時点）
- ・引き続き、任意交渉を行うと共に、収用のための事業認定（平成22年度内を目処）に向け申請手続き中。

-9. なぜ、ダム建設工事に道路整備が必要となるのか？

ダム建設によって府道榎尾山仏並線が水没するため、道路の付替えを行う。



- ・ 仏並町（大畑地区）の集落内は、屈曲する狭い道路であるため、付替道路が出来れば、集落内の住民をはじめ地元住民の交通の安全に寄与する。また、施福寺等に向かう観光客等にとっても利便性が向上する。
- ・ なお、地元は要望書も提出している。

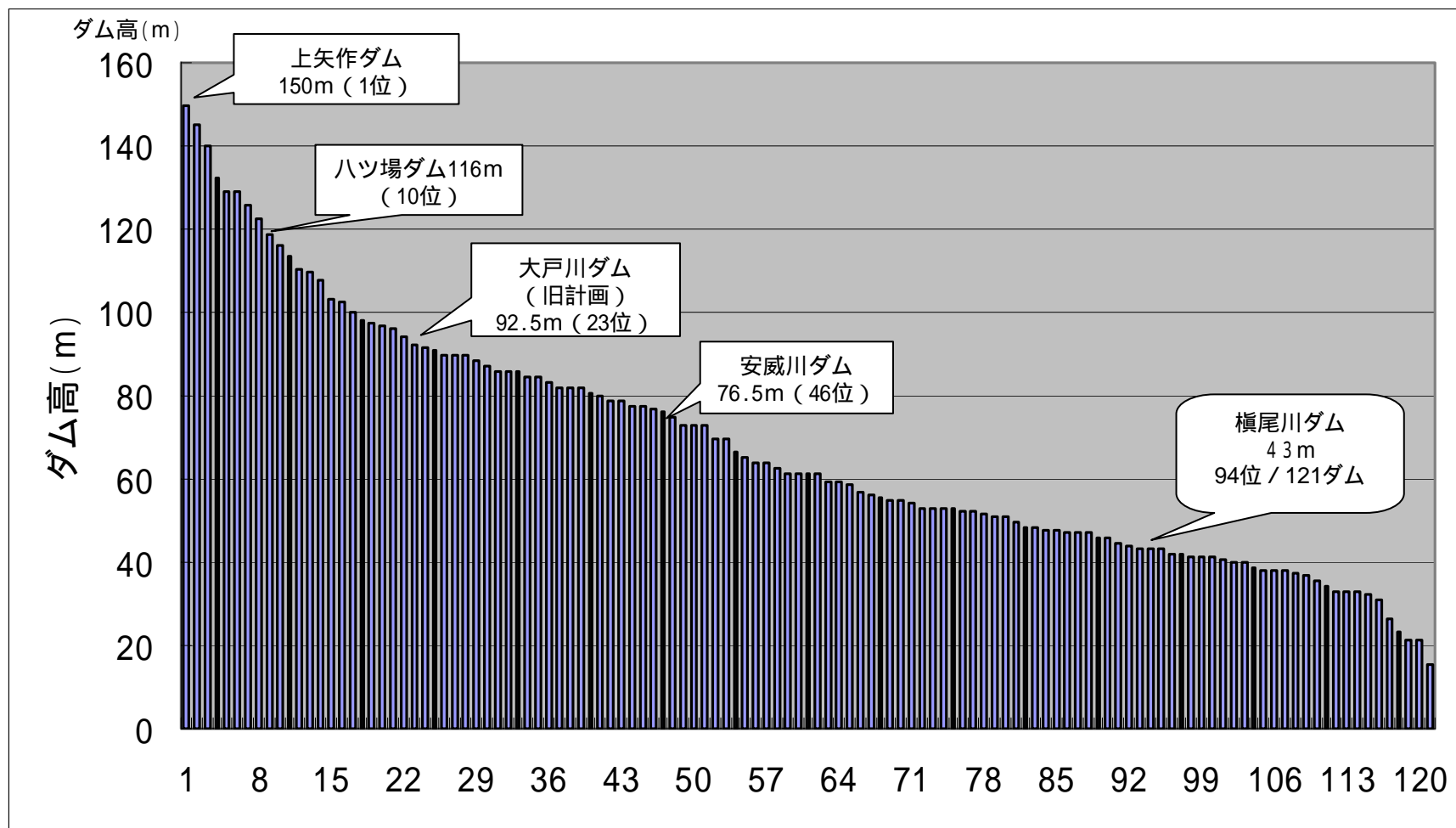
【地元要望一覧】

要望日	要望者	相手	要望内容	
			ダム	道路
H3.12.24	横山地区町会連合会長	和泉市長		
H6.9.1	和泉市大畑町会長	大阪府知事		
H6.11.28	和泉市坪井町会長	和泉市長		
H7.12,21	和泉市仏並町会長	大阪府知事		
H8.4.30	横山校区連合会長	和泉市長		
H9.8.15	横山地区町会連合会	和泉市議会議長		
H9.10.2	和泉市議会	大阪府		
H10.7.23	観音寺町、芦部町、桑原町、阪本町 各会長	大阪府知事		
H10.10.2	槇尾山施福寺	和泉市長		
H11.7.2	建設推進署名(4,023名)	大阪府知事		
H12.5.18 H15.10.28 H21.4.17	大畑町、坪井町、ダム対策委員長、仏並町プロジェクト推進委員長、横山校区連合町会長	大阪府知事		
H16.5.21	建設推進署名(3,559名)	大阪府知事 大阪府建設事業評価委員会委員長		
H16.7.5	和泉市町会連合会会長	大阪府知事 大阪府建設事業評価委員会委員長		
H20.4.17	和泉市長	大阪府知事		
H2~H21	流域市町長(和泉市、泉大津市、忠岡町)	国土交通大臣 他		

-10. 榎尾川ダムの規模は、他ダムと比較してどうか？

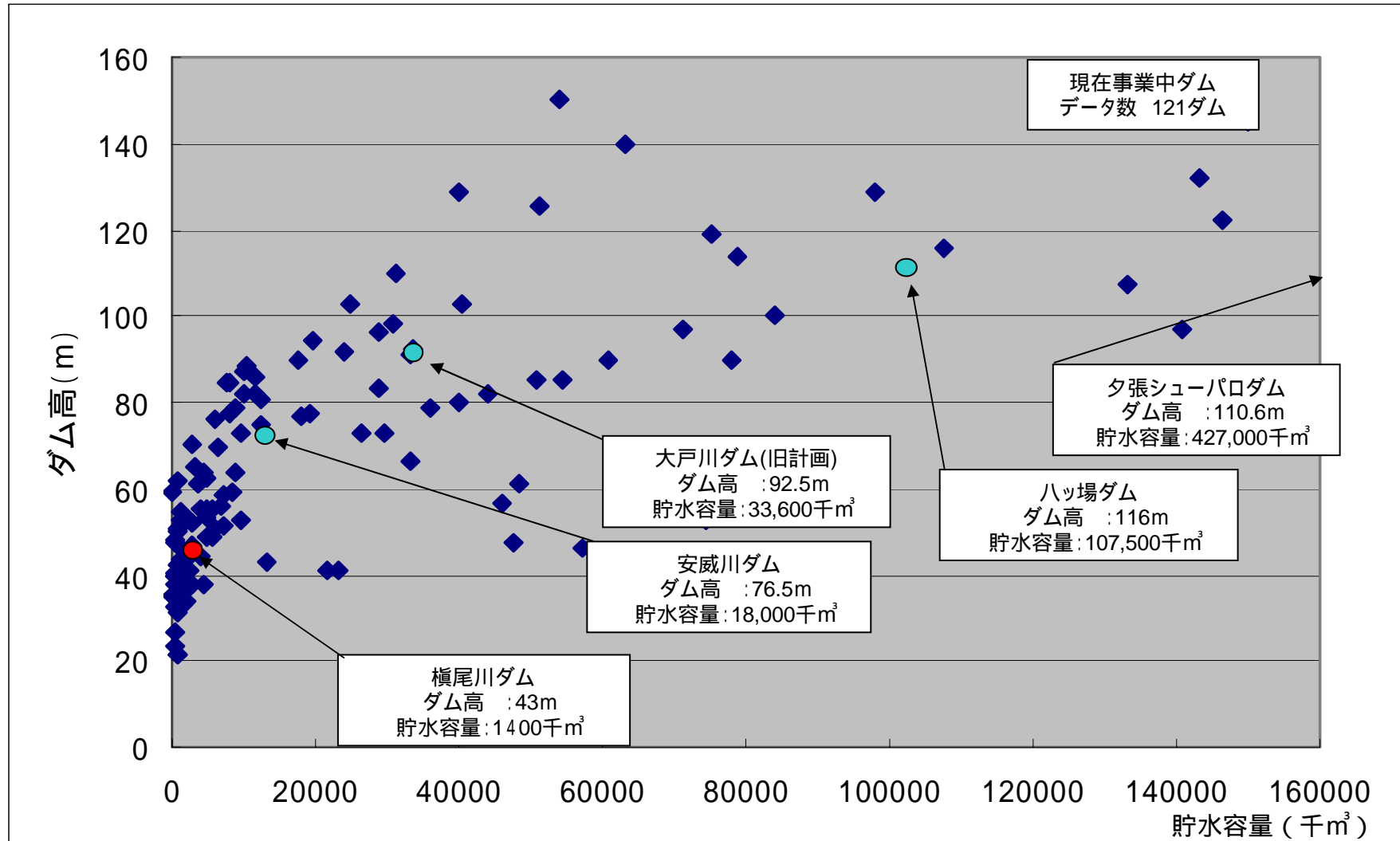
全国143事業のうち121事業を対象にダム高で比較。

事業中の全国143事業のうち、事業名称に「ダム」「生活貯水池」を含む事業を抽出した。



出典：ダム便覧、各ダムHPIによる

121事業について、ダム高と総貯水容量の比較。



出典:ダム便覧、各ダムHPIによる

ハッ場ダム、大戸川ダム、安威川ダム、槇尾川ダムの諸元を比較。

	ハッ場ダム	大戸川ダム (旧計画)	安威川ダム (旧計画)	槇尾川ダム
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節 ・不特定利水 ・上水道・工業用水 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節 ・不特定利水 ・上水道・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節 ・不特定利水 ・上水道 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節 ・不特定利水
堤高 (m)	1 1 6 . 0	9 2 . 5	7 6 . 5	4 3 . 0
総貯水容量 (千m ³)	1 0 7 , 5 0 0	3 3 , 6 0 0	1 8 , 0 0 0	1 , 4 0 0
水没戸数 (世帯)	3 4 0	5 5	4 9	-
流域面積 (K m ²)	1 6 , 8 4 0 . 0	7 , 3 3 2 . 6	6 0 8 . 6	5 6 . 7
集水面積 (K m ²)	7 0 7 . 9	1 5 3 . 5	5 2 . 2	3 . 4
集水面積 / 流域面積 (%)	4 . 2 0	2 . 0 9	8 . 5 8	6 . 0 0

出典：ダム便覧、各ダムHPによる

-11. ダム直下に洪水氾濫防御区域があるダムは？

榎尾川ダムと同様に、ダム直下に洪水氾濫防御区域がある事例。

いきさ なかこぼ いでぐちがわ ふくとみ みつぎ
伊岐差ダム、中木庭ダム、井手口川ダム（佐賀県）、福富ダム、御調ダム（広島県）、他

ダム名 : 伊岐佐ダム
ダム高 : 58.5m
総貯水容量 : 1940千m³
管理者 : 佐賀県



まとめ

榎尾川では、時間50ミリの降雨があった場合、中下流部で、面積556.9ha、14,505戸、上流部で面積 6.6ha、18戸の浸水被害が想定される。

これらの被害は、河川改修とダム建設により解消され、このうち中下流部でのダムの効果は、16.6ha、414戸の被害を解消。上流部では、ダムのみで、6.6ha、18戸の被害を全て解消できる。

榎尾川ダムの総事業費は、128億円であり、このうち平成21年度末までに58億円が執行見込みで、残事業費は70億円。

進捗状況は、平成21年度末見込みで、用地買収95%、付替道路が3.3kmのうち1.5kmが完成予定。ダム本体工事は平成21年5月に契約しており、契約金額は約31億円、契約工期は平成27年5月。